

2004年(平成16年)6月4日(金曜日)

埼玉2 地域 新聞 産 業 賞 賞 賞

里地里山保全コンテスト

おおたかの森トラスト受賞

多くの動植物や自然が息づく里山を守る「里地里山保全活動コンテスト30」(読売新聞社主催、環境省共催、農林水産省など後援)の県内受賞者に三日、「おおたかの森トラスト」(足立圭子代表、所沢市)が選ばれ、「くぬぎ山」をはじめとした雑木

林だ。これらの林の多くは民有地で、相続などで売られ、開発されるたびにオオタカやタヌキ、キツネなどの生き物が数を減らしていった。

表彰式は今日十二日、東京・大手町の読売新聞東京本社で行われる。一九九四年の設立以来「おおたかの森トラスト」が活動するのは所沢市、狭山市などにまたがる「くぬぎ山」をはじめとした雑木

「おおたかの森トラスト」は、その雑木林を自分たちの活動資金と行政への働きかけで購入し守っていくという活動だ。既に千三百平方メートル以上を購入し、ほかに十二か所の林を所有者から借りて保全に取り組んでいる。

活動資金は、雑木林で刈った木や竹を炭にし、ホダ木にも活用し育ったシイタケやナメコなどを売って得ている。炭は空気や水の浄化用に使われ、土壌を貸してくれた農家には畑の肥料用にと粉末炭を配っている。炭を作る際の煙から得た木酢液も、二十五人の会

員を通じて売る。年間約四千人訪れる県内や都内の小学生らにも、林の清掃などを通じて保全の大切さを伝えていく。

雑木林の中の炭焼き場での作業は服も汚れ大変だが、足立さん(59)は「これからも子どもたちも活動していきたいし、農家においてほしい野菜を作ってもらいたい、里山の大切さを伝えていきたい」と張り切っている。



受賞を機にこれからも頑張りたいと話す「おおたかの森トラスト」のメンバー(所沢市で)